

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

千葉大学

前期日程

科目

化学

総括

試験時間	60～120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100～500点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

全体的に難易度は昨年並みである。昨年は論述問題が1問だけであったが、今年は従来どおり、複数の出題があった。計算問題の数は従来どおりだが、易化した。

〈特記事項・トピックス〉

論述の問題は解答しづらい問題が多いので、日頃の学習において自分の言葉で、自分の手で書く練習が不可欠である。

〈合格への学習対策〉

今年度は再び論述問題が増加した。

生分解性プラスチックは、産業界でも注目されている素材である。テレビや新聞などのメディアでよく扱われる化学に関連した事柄については、自分なりに調べてみるとよいだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	I	理論・無機	水溶液の電気分解。酸化還元反応。確実に得点したい。	やや易
2	記述	II	理論	コロイド溶液の性質。問3～5の解答には時間を要するので、問1、2は手際よくこなしたい。	標準
3	記述	I・II	理論・無機	混合気体。酸化物。沈殿生成反応。確実に得点したい。	やや易
4	記述	I・II	理論・無機	沈殿生成反応。電気陰性度と極性。問7の記述問題の解答には時間を要する。	やや難
5	記述	I	有機	油脂の構造決定。計算を確実にできるかどうかで得点に差がつく問題である。	標準
6	記述	I・II	有機	乳酸とポリ乳酸。アミノ酸。標準レベルの高分子の計算問題に慣れておきたい。	標準
7	記述	II	有機	二糖、多糖。問3の記述問題が解答しづらい。問5は題意を正しく読みとれたかがポイント。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。